

【溥儀と紫禁城の宝】

中国紫禁城から多くの財宝がヨーロッパや日本に流れ出てしまった。ラストエンペラー・溥儀が持ち出した書画 1200 点の内、300 点が見つかっていない。今 中国政府は中華民族の悲しみとして、かけがえのない宝を躍起となって回収している。NHK TV で紹介されていたものは以下の通りである。

- 「五馬図巻」(李公麟 北宋 11 世紀 東京国立博物館)
- 「乾隆帝三聯印」(清第 6 代皇帝 三つの鎖につながれた印鑑 故宮博物院)
- 「清明上河図」(張昞端 北宋 12 世紀 全長 5m 故宮博物院)
- 「曹娥誄辞」(王羲之伝承品と云われていた 東晋 4 世紀)
- 「二謝帖」(王羲之 唐/奈良時代 8 世紀 王羲之の書の写しで現存するものは 20 法帖にも満たないという)
- 「簪花仕女図」(周昉 唐 8 世紀 故宮博物院)
- 「珍禽図」(黄筌 五代十国 10 世紀 故宮博物院)

毛沢東は溥儀のことを「死ぬことを非常に恐れる小心者」と云っていた。

「NHK TV『映像の世紀 ラストエンペラー・溥儀』20250203」(川端紅葉編)

日本でも多くの古文書が流出して第三者の手に渡っていると云われている。
「日本の宝が流出することを食い止めるための、法の整備を今後いっそう進めべきだ」との声がある。



「五馬図巻」(東京国立博物館所蔵)